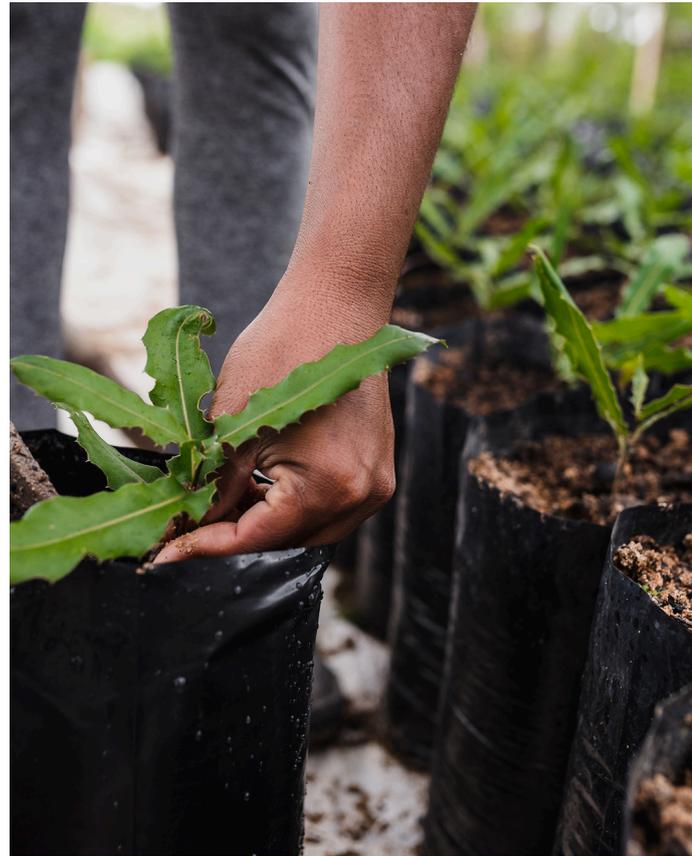


— NO203 12月号

FOREST NEWS

未来を守る木を植える
未来を育てる木を植える



2024年度 指標

- ①パンタナール地域における潜在自然植生の混植密植形式の植樹の実施
- ②国内において累計500本の植樹活動
- ③植樹を通じた環境問題解決のロールモデルをつくる
- ④セミナーを通じて植樹活動の啓発
- ⑤他団体との連携

NPO法人 地球の緑を守る会

発行人 高津啓洋

〒121-0072東京都足立区保塚町1-6

Tel:03-6783-4707 Fax:03-6783-5595

ホームページ <http://midori.mond.jp/>



ブラジル側パンタナールの風景

理事長メッセージ

再生可能エネルギーとしての常緑広葉樹林を育てよう！

太陽光、風力、地熱、バイオマスなど自然界に存在するエネルギーで、枯渇することなく継続的に利用できるものを「再生可能エネルギー」といいます。化石燃料（石油、石炭、天然ガスなど）とは違い、温室効果ガスを出さないクリーンエネルギーです。

バイオマスとは、生物が太陽光、水、炭酸ガスから光合成によってつくった有機物で、生命と太陽光があるかぎり再生可能です。バイオマス発電やバイオマスプラスチック（有機分解可能）などに利用されています。太陽光発電は非常にクリーンな反面、その日の天候に左右されるので効率が悪く、自然景観をそこなう欠点があります。バイオマスエネルギーの中で意外に知

られてない重要なエネルギー形態があります。樹木の集合体、つまり森です。森といってもわれわれが現在見慣れているスギ、ヒノキ、マツなどの人工林ではありません。100年以上前に都市化とともに伐採され、日本各地から消えてなくなったシイノキ、タブノキ、カシノキを主木とする常緑広葉樹林です。わずかに残っている事例として明治神宮の森が挙げられます。常緑広葉樹林を「再生可能エネルギー」の観点から見れば、多様性・持続性・環境保全性という点で市民生活に多様なメリットをもたらしてくれるエネルギーといえます。

今回は、日本に0.06%しか残っていないきわめて貴重な常緑広葉樹林の再現方法を紹介します。

2025年パンタナール植樹活動 始動します

植樹チームのレダ派遣が決定

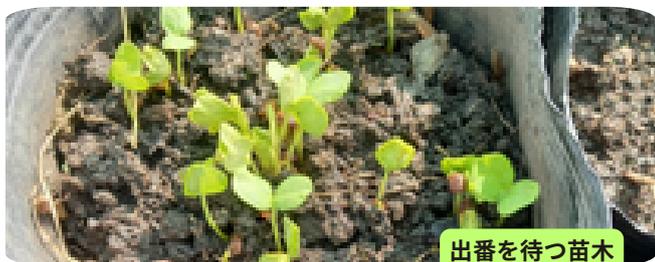
2025年5月に、パンタナール地域のレダで混植密植の植樹をテストケースとするため、植樹チームの派遣をすることが決定しました。これは地域で初めての試みとなります。今回のプロジェクトは、今までレダ現地で行ってきた植樹活動の次の段階を目指す取組として、パンタナール地域の環境保護や生態系の回復を目指す重要な一歩となります。

パンタナール地域は、世界最大の湿地帯として知られ、多様な動植物が生息しています。しかし、近年の気候変動や人間活動の影響により、その生態系は危機に瀕しています。このような状況に対処するモデルケースを作るため地域住民や青年ボランティア、日本の専門家が協力して植樹活動を進めています。

植樹方法の模索する

このプロジェクトでは、3m×3mの範囲を9つの区画に分け、各区画（1m×1m）に3つの苗木を植樹する計画です。樹種はパンタナール地域の潜在自然植生であるケブラッチョやパロサントなどを検討しています。これらを混植密植することにより、従来は100年以上かかる生態系の森を20～30年で復元していくことができると期待されています。

植樹をする場所についても、従来は平地にマウンドを作り水の通り道を確認していましたが、作業効率を考慮し、堤防の土手の傾斜を利用してマウンドの代わりにする予定です。また、植樹による土手の強化を目指しています。



出番を待つ苗木



パラグアイ政府への働きかけにつなげる

このプロジェクトは、他の地域や国々にとっても参考になるモデルケースとなることを目指しています。パンタナール地域での成功事例を基に、同様の植樹活動がパンタナール・アマゾンまで広がり、地球規模での環境保護活動の一助となることのできるような志をもって植樹をしていきます。

また、植樹活動により吸収された二酸化炭素はカーボンクレジットとして評価されることが期待されています。これにより、地域経済への新たな収入源が生まれ、さらなる環境保護活動の資金となる可能性があります。カーボンクレジットの活用は、企業や個人が環境負荷を軽減する取り組みに対するインセンティブとなり、広範な環境保護の意識と行動を促進することが期待できます。

さらに、国際的な環境保護団体や政府機関との連携を深めることで、グローバルなネットワークを構築し、より広範な規模での植樹活動や環境保護プロジェクトを推進することが可能になります。このような取り組みが進むことで、地球全体の生態系の健全性が向上し、気候変動の緩和や生物多様性の保全に貢献することが期待できます。

最後に、このプロジェクトが成功することで、他の地域でも同様の方法が採用され、新たな環境保護のモデルとして広く認知されることを目指しています。未来の世代に豊かな自然環境を引き継ぐために、このプロジェクトの成果が多くの人々に影響を与えることを期待しています。

三世代が集う布田南公園の花いっぱい運動

地域密着型の植樹活動

2024年12月22日、京王線布田駅から徒歩3分にある布田南公園で、どんぐりの森、地球の緑を守る会、APTF調布が合同で花いっぱい運動が開かれました。子どもから青年、壮年、老年の三世代が集まり、みんなで楽しく花を植えました。この運動は、地域の絆を深めるために企画され、調布市から花壇づくりを委託されて実施されています。



継続する活動と土壌の改善

花いっぱい運動は今年で3年目を迎え、布田南公園周辺の恒例行事となっています。毎年6月と12月に活動が行われ、参加者たちは季節ごとに公園を美しくするために努力しています。近所に住む方のなかには、1年を通じて見守ってくださり、ときには参加してくださる方もできました。

最初は硬かった土壌も、みんなの継続的な努力のおかげで耕され、最初の掘り起こし作業も容易になってきています。生態系を取り戻していることを実感します。



美しい花壇を子どもたちがつくる

参加者8名が力を合わせて花を植え、美しい花壇を5か所作りました。冬を越え、春になれば色とりどりの花々が公園を彩り、訪れる人々に喜びをもたらしてくれる予定です。特に子どもたちは、自分たちが植えた花を見て誇りに思い、自然と触れ合う楽しさを味わいました。地域の人たちが花壇を見て笑顔になる様子は本当に素敵です。



地域の未来に向けて

このイベントを通じて、年々、絆がさらに深まっていくと感じます。都会では植樹ができる環境は限られていますが、身の回りの環境で出来ることを続けていくことで今後もこうした活動を通じて地域を盛り上げていきたいと考えています。

布田南公園の花壇は、地域の協力者の皆さんとともに毎週の水やりや雑草取りが続けられています。大切に管理され、季節ごとに美しい花々で彩られる予定です。

